

令和 6 年度 自己評価・施設関係者評価報告書

令和 7 年 2 月 まるやま学園かおり幼稚園
評価実施日 令和 7 年 1 月 16 日～31 日

(1)本園の教育目標

自分で考え自分で行動できることも

(2)教育方針

教育目標達成のために、一人ひとりのこどもの個性、能力を十分に伸ばし、自己確立していく指導を心掛けます。自己達成していく指導に、きょういんの一方的な考えによる指導をするのではなく、こども一人ひとりが自ら興味を示し、自分の力で取り組み、自己肯定感を高めていくことを可能にする環境構成について考え、取り入れて行く様、努めています。こどもが今、何をしたいか、興味、関心、欲求、考え、また変容していく姿を的確に把握し、そのこどもの欲求や考えを実現することを援助するよう、関わり合いを持つことを大事にしています。

(3)教育課程

1. 自分で考え自分で行動できるこどもを育てる
2. 他人に対する思いやりを育む
3. 失敗に挫けない意欲を育てる
4. こどもらしいこどもを目指す

以上、4項目を大切に、指導計画を立てます。

(4)本年度の重点目標

本年度は、園舎建て替えに伴い、通常とは異なる環境の中での活動が増えることが予想されますが、環境に左右されることなく「自分で考え自分で行動できるこども」という教育方針が実現できるよう、教員と保護者がこれまで以上に一体となった幼児教育を行うことを目標とします。

- ・ どのような状況でも、こどもたちの健やかな成長を支える質の高い保育を維持するため、新しい環境に適応した創意工夫を行います。
- ・ 安全性への理解と信頼を深めるため、保護者や近隣住民との積極的なコミュニケーションを図り、また教職員で共通意識を持てる環境づくりを醸成します。
- ・ 「自分で考え、自分で行動するこども」の力を育むため、教員自身が模範となる姿を示します。どんな環境であっても課題に向き合い、主体的に考え、行動する姿勢を子どもたちに伝えるよう努力します。

#

(5)自己評価結果

園長・教職員に各評価項目を自己採点してもらい、その平均点と傾向を分析した。

園長は指導的立場からの評価、教職員は実務的立場からの評価となる。

ほとんどの項目で 6～7 割を達成できている自己評価となり、また園長と教職員の間で乖離するような評価もなく、適切な保育・園運営ができていると考えている。

なお、当園は令和 8 年 4 月より幼保連携型認定こども園に移行するため、今年度は令和 7 年 1 月より仮設園舎で運営している。そのため今回は通常園舎とは異なる評価をしている教職員もいることに留意されたい。

I 教育目標 教育方針 18.8 点／25 点満点(達成率 75.2%)

園の教育目標や教育方針を理解し、それらを基に保育を行ってはいるものの、教育目標や方針について他の先生または園長と意見を交わす機会が少ないと感じている。

今後は職員会議など、全職員が集まる場を活用して、教育目標や方針について共有し、意見交換できる時間を設け、よりよい保育に活かしたいと思う。

II 教育課程 指導計画 17.3 点／25 点満点(達成率 69.2%)

指導計画は、教育方針を考慮しながら作成し、行事についても幼児の生活における意義を十分に検討した上で計画に組み込んでいると考える。

しかし一方で、指導計画を積極的に活用しているか、また本当に幼児の「やりたいこと」や興味を十分に反映しているとは言い切れない部分もあると感じている教員もいることから、今後の課題としたい。

III 教育環境 23.1 点／35 点満点(達成率 66%)

教育環境は概ね良好に整備されていると考える。

子どもたちが楽しい雰囲気の中で安定して遊べるよう、遊具や用具、素材の質や数量に配慮しながら教育環境を整えており、また、保育室の装飾や展示の工夫を行っている。さらに、芋掘りや遠足など、自然や社会とかかわりを持てる体験をできるだけ取り入れるよう努めている。

その中で、地域の気候を活かした保育活動は十分に実践できているとは言い難く、季節を感じられる行事を多く取り入れて行きたい。

IV 教育・保育の内容と方法 19.7 点／25 点満点(達成率 78.8%)

教育・保育の内容は、かねがね充実しているが、その内容に多少の偏りがあると感じている。

例えば幼児の家庭での様子を参考にしながら、援助の内容を工夫し、また遊びを通じてルールを学んだり、我慢する経験を積んだりなどの工夫を行っている、できていると考える教員は多い。

しかし、幼児が意欲的に造形活動(描画や製作)に取り組む時間を十分に確保しているとは言い難い状況であると感じた教員もいる。

V 保育者の役割・資質向上 28.8 点／40 点満点(達成率 70%)

厳しく自己評価している保育士もいるため、資質に対する考えにはばらつきがあるものの、保育士として、幼稚園教諭としての役割、資質はしっかりと意識しながらの保育、教育はできていると考えている。ただし、他の教員が研修会で得た知識や体験を共有する機会が少ないと感じる教員もいるため、教育方針と同様、職員会議などでの報告会やレポートの回覧などを行い、情報共有に努めたい。

#

VI 保護者との連携

17.5 点 / 25 点満点(達成率 70.8%)

保護者との対話は積極的に行っている。個々の子どもの様子は、直接保護者と話をしたり、連絡帳や電話などで伝え合ったりして信頼関係を築くようにしており、今後も継続して行うべき事項だと考えている。また、保護者からのクレームは無いことが望ましいが、あった場合は、まず謙虚に話を聞き、園長に連絡・報告・相談を行うなど、教職員にはその方法と手順を徹底している。

なお、保護者の会と連携し、園全体で問題解決ができる環境をさらに強化したいと思う。

VII 地域住民や関係機関との連携

13.9 点 / 25 点満点(達成率 55.6%)

各項目の中で最も自己評価の低いものとなった。

あいさつ等はできているが、地域住民や関係機関(近隣の保育園や幼稚園)と連携ができていないと感じている教員は多い。

特に高齢者との交流が少ない。以前は敬老の日に高齢者を園に招き、子どもたちと一緒に交流していたが、コロナ蔓延時に中止になった経緯があるので、折を見て再開できればと考える。

また関係機関との交流も、担当教員以外は積極的にできていないのが現状である。

新園舎開園以降は、関係機関のみならず地域住民と交流の場を設置、復活させたい。

VIII 運営管理

12.5 点 / 20 点満点(達成率 62.5%)

運営、管理については捉え方に個人差がある状況である。

個人情報など秘密情報の取り扱いは厳格に行っており、教職員全員が意識徹底できていると考えているものの、イレギュラーなことが起きた場合の対処や自身の役割が明確ではないと思っている教職員も存在する(もともと、役割が補助・補佐であったりする教員もいるため)。

教職員全員がイレギュラー発生時に困ることのないよう、マニュアルの再整備や利用方法を明確にする必要がある。

(以上、評価項目詳細については、付録を参照)

(6)自己評価 自由記入欄要約

教職員に自己評価(よくできた点・反省点それぞれ)を自由記入してもらった。

【よくできた点】

- ひとりひとりの子どもと関わることで信頼関係を築けた。
- 初めての預かり保育担当でやりがいを感じ、異年齢保育の難しさを実感した。
- さまざまな問題の改善方法を見つけるため、話し合いの時間を設けることができた。
- 子どもたちの声を大切にし、先生が見本を見せたり一緒に作業をして遊びを広げられた。
- 悩むことも多かったが、努力し続けて保育を進めた。
- 子どもたちの「やりたい」を大切にしたい保育を意識した。
- 研修で学んだ内容(サークルタイムなど)を実践できた。
- 研修や会議で積極的に発言し、コミュニケーションを心掛けた。
- 園全体を見るよう心掛けた。

#

- 部屋の整理整頓や基本的な生活習慣の指導を丁寧に行った。
- 制作準備の時間を見つけて早めに進めることができた。
- 初めての学年で、先輩からアドバイスをもらいながら進められた。
- 複数担任として連携を取れるようになり、役割分担に充実感を感じた。
- 衛生管理を特に意識してできたと思う。
- 加配の子の担任と積極的に意見交換、情報交流できたと思う。
- 先輩の先生たちから学び、保育実務に活かすことができたと思う。

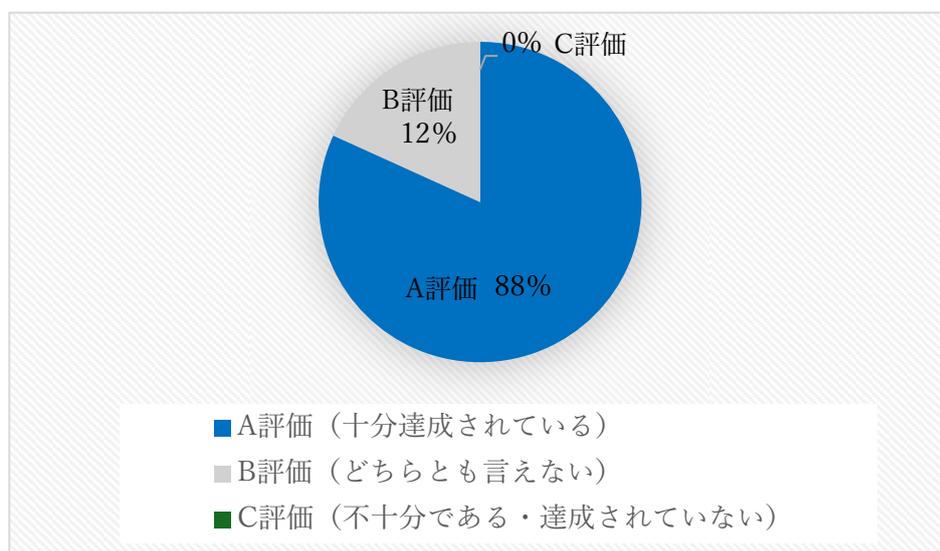
【反省点】

- 保育中は子どものやる気を引き出す言葉かけをもっとできるようにしたい。
- 保育後は効率よく行動できるようにする。
- 話し合えたことを実践する難しさを改めて感じた。
- 意思の疎通が難しいことがあった。
- 保育の考え方が違うのは当然だと理解しているが、怪我・事故以外でスムーズに進める方法を伝えたくても、過去のやり方に慣れている先生には言葉にするのが難しく、何度か試みても受け入れてもらえなかった。
- 言葉にして表現できなかつたことに反省が残っている。
- 加配の子に大人が付きすぎないように意識したが、加配の先生に頼ってしまう場面が多かった。
- クラス全体と加配への対応のバランスの難しさを感じた。
- 具体的な目標を共有し、対応を統一するために話し合いの時間を作りたい。
- 職員間で出るところ引くところを自分で判断できなかった。
- 自分たちで進めることや後輩からの意見を出しやすい雰囲気を作ることに慣れていきたい。
- 子どもに対する関わり方で変化が欲しい。
- 自分とは異なる保育を見て刺激を受けたい。
- 自分の立ち位置がわからず、指示を待つことが多かった。
- 自分のことでキャパシティーがいっぱいになり、全体のことを考える余裕がなかった。
- 3学期には余裕を持てていなかった。
- 余裕がない時は仕事が終わらず、遅くなり、体調管理ができていないことでフリーの先生や全体に迷惑をかけた。
- 効率の良い会議の進め方を考えるべきだった。
- 預かり保育との連携で、トイトレをうまく進められていないことが多かった。
- 癩癩になりやすい子の対応が難しく困った。
- 会議で同意や賛成の意思表示をしていたが、伝わっていたか分からない。
- 行事や内容は、その年や子どもに合ったものが必要だと感じた。
- 行事等で計画を立てても、勤務時間内に進めることが難しいと感じた。
- 行事の見直しを検討すべきだと思った。
- 経験者で済ませてしまい、1年目の先生にはもっと自分の意見を出せる時間を作る必要があると感じた。
- 声掛けをもっとしないと先生同士で連携が取れていないかも、と感じることがあった。
- 子ども一人ひとりの性格や状況を考慮した子どもたちへの声掛けをできるようにしたいと思う。

- 声掛けのバリエーションが少なく、子どもの気持ちにもう少し寄り添えるよう声掛けできればと思った。
- 自分のことでいっぱいになり、周りが見えていないことがあった。
- 職員の間に入ったマネジメントができていなかった。
- 気付かされること・学ぶことが多い1年だった。
- 日々の業務で手がいっぱいになり、自己研鑽の時間を作れなかった。
- 保育中はクラスや手伝いに入ることが多く、事務作業が滞っていた
- フリーの中では全員が揃う機会が少なく、共通理解が難しいこともあった
- 積極性に乏しく、全体での発言が少ないことが課題であり、改善したい

(7)施設関係者評価(保護者評価)

かおり幼稚園保護者の会にて、当園の評価を行っていただいた。



(評価項目詳細については、付録を参照)

子どもたちが当園に通うことで子どもの成長を感じられるかどうか、また保育士の教育、保育方針とその姿勢はどうかといった項目については、ほとんどの項目で A 評価をいただいております、今後も高い評価を得られるようたゆまぬ努力を続け、幼児教育を行っていきたいと思う。

一方で、「保護者と教職員との間でのコミュニケーションが十分とは言えない」と感じている保護者もおり、教職員と保護者の連携をどう円滑に、積極的に、そして内容の濃いものにするかが課題となっている。

なお、C 評価の項目はなかった。

#

(7)保護者評価 自由記入欄要約

保護者の会役員に評価項目以外での意見、要望などを自由記入してもらった。

【好意的な意見】

- 園全体の雰囲気良く、元気で明るく優しい先生方ばかりであるため、安心して子どもを預けられる。子どもも楽しく通っている。
- 四季折々の行事が充実しており、日々の保育の中で何を大切にしているかや、子どもたちの姿などが「学年だより」などから伝わるありがたい。
- 幼児を育てる親は未熟であり、親としての成長を子どもとともに感じる 3 年間で、かおり幼稚園に通わせたことに満足しており、卒園を前に改めて感謝している。
- 新しい園舎になり、さらに発展するかおり幼稚園を今後も応援したい。

【保護者からの要望および懸念と、それに対する園の対応】

保護者からの要望および懸念	園の対応
仮設園舎に移ることで行事が減ったこと(例:餅つきや移動動物園)は保護者として悲しい。違った方法での実施を検討してほしい。	園庭が使用できないため、外遊びは近隣の公園を利用していますが、衛生上の観点からやむを得ず中止にせざるを得ない行事もございます。新園舎開園後は再開いたしますので、どうぞご理解くださいますよう、お願い申し上げます。
子ども用トイレが男女一緒なのはなぜか。別にすることはできないのか。	子どもたちの見守りのため、トイレは男女一緒の設計になっています。なお女子用トイレは個室になっているため、現状維持とさせていただきます。
仮設園舎で園庭が遊具が使用できない状況では、室内で過ごすだけでなく、散歩や公園遊びなど体を動かす機会を週1回でも設けてほしい。	外遊びや、園庭でなくても可能な行事(運動会など)は近隣の公園で行っています。遊具のある公園まで歩く、なども検討します。
園のルールを忘れている保護者が多い可能性があるため、年度初めの諸注意配布に加え、広める工夫が必要ではないでしょうか。	ご指摘ありがとうございます。 入園時にルールをまとめたものを配布いたします。
車での登園は原則禁止であるが、近隣駐車場や保護者用駐車場の利用について明確な指針を示してほしい。	ご指摘ありがとうございます。 園の連絡ツールなどで駐車場、駐輪場に関する明確な指針を配信いたします。
おもちゃやお菓子の持ち込み禁止のルールは掲示により周知することで、保護者が子どもへ説明しやすくなるので、取り入れてほしい。	ご指摘ありがとうございます。 持ち込み禁止のルールを園に掲示するよう検討いたします。
降園後のお菓子交換は楽しみにしている子どもも多く、保護者同士の交流にも役立っているため、禁止ではなく節度ある行動を促す呼びかけにはどうか。	近隣からの要望で、ゴミの懸念や長時間道路を占拠することを快く思わない方もおりますため、園ではやむを得ず禁止という措置を取らせていただきました。なにとぞご理解くださいますようお願いいたします。
行事のお知らせや変更は早めをお願いしたい。このために休暇を取る保護者もいるため、お知らせが遅いと行事に参加できない。	申し訳ございません。 やむを得ず行事に急な変更が生じる場合もございます。変更についてはできるだけ早急に園の連絡ツールでお知らせするように徹底いたします。

#

【保護者の会の対応策】

保護者の会では、各保護者からの意見を随時受け付けるために下記のような対策を検討している。園としても、保護者の会との連携を密にして協力体制をとりながら、保護者の会から出された意見や要望を園の円滑な運営につなげたいと思う。

共働きで預かり保育を利用する方が多く、保護者間でのコミュニケーションをとる機会が少ない方も増えており、園や他の保護者に対するご意見などを表出できない方もいるかと思えます。そのため、保護者の会としては、このような保護者からのご意見を受けることができるツールを設けたいと考えました。昨年設置した保護者会用提出 BOX に「ご意見提出ファイル」を新たに作りたと思います。記名・無記名に関わらず受け付け、頂いたご意見は役員会で共有した上で、改善点等を検討したり、必要であれば園側にお伝えしたりと有意義な保護者会活動に繋げたいと思います。

(8) 今後、園が取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法など
安全管理	仮設園舎でも不審者対策(警察からの不審者情報の活用・通報システムの利用)や、安全点検・安全管理を引き続き徹底する また近年頻発が想定される大地震や災害に迅速に対応できるよう、危機管理マニュアルなどの見直しを図る
特別支援教育	支援の必要な子どもの勉強会を定期的に関き、教職員で共通理解を持てるよう日々意思疎通を図ってはいるが、引き続き重点課題として、特別支援教育に取り組む
外国人園児への対応	近年外国人幼児の入園が増えているため、食事、服装、宗教的な習慣など、子どもたちが多様な価値観を自然に受け入れられるよう、外国の文化や言語に触れる活動を積極的に取り入れる また、職員が多文化対応のスキルを学ぶ機会を設けるように努める。例えば異文化理解の勉強会や簡単な英会話の研修などを行う
保護者の満足度の把握	園児の登園・降園時などでも保護者とのコミュニケーションを図り、園への要望があれば積極的に対応するよう心掛ける 特に仮設園舎での運営中は通常と異なる部分も出てくるため、保護者からの意見を積極的に吸い上げる また保護者の会とも連携を密にして、協力体制をはかる
地域住民との連携強化	地域住民との連携強化は、園にとっても、ひいては地域のためにもなるため、また職員の自己評価が低い取り組みでもあることから、積極的に取り組むべき課題と認識している。 ・地域住民や高齢者と顔見知りになることで、不審者を未然に防ぐ ・大地震や災害発生時、被害を最小限に抑える ・大規模災害の時は、園を避難所として開放できるよう準備を進めていく 仮設園舎のため通常よりできることが制限されるが、隣接公園での活動時に声掛けをするなど、コミュニケーションを多くとるようにする

以上

令和6年度 自己評価回答シート

作成 まるやま学園 かおり幼稚園

評価実施日 月 日

いつも子どもたちのためにご尽力いただき、ありがとうございます。

このたび、より良い保育を行うために、先生方に自己評価をお願いしたいと思います。今年度の取り組みを振り返り、ご自身の成長や課題を見つめ直す機会としてご回答をよろしく願いいたします。

(1)教育目標

自分で考え自分で行動できることも

(2)教育方針

教育目標達成のために、一人ひとりのこどもの個性、能力を十分に伸ばし、自己確立していく指導を心掛けます。自己達成していく指導に、教師の一方的な考えによる指導をするのではなく、こども一人ひとりが自ら興味を示し、自分の力で取り組み、自己充実していくことを可能にする環境構成について考え、取り入れて行く様、努めています。こどもが今、何をしたいか、興味、関心、欲求、考え、また変容していく姿を的確に把握し、そのこどもの欲求や考えを実現することを援助するよう、関わり合いを持つことを大事にしています。

(3)教育課程

1. 自分で考え自分で行動できるこどもを育てる
2. 他人に対する思いやりを育む
3. 失敗に挫けない意欲を育てる
4. こどもらしいこどもを目指す

以上、4項目を大切に、指導計画を立てます。

(4)本年度の重点目標

本年度は、園舎建て替えに伴い、通常とは異なる環境の中での活動が増えることが予想されますが、環境に左右されることなく「自分で考え自分で行動できるこども」という教育方針が実現できるよう、教職員と保護者がこれまで以上に一体となった幼児教育を行うことを目標とします。

- ・ どのような状況でも、子どもたちの健やかな成長を支える質の高い保育を維持するため、新しい環境に適応した創意工夫を行います。
- ・ 安全性への理解と信頼を深めるため、保護者や近隣住民との積極的なコミュニケーションを図り、また教職員で共通意識を持てる環境づくりを醸成します。
- ・ 「自分で考え、自分で行動するこども」の力を育むため、保育士自身が模範となる姿を示します。どんな環境であっても課題に向き合い、主体的に考え、行動する姿勢を子どもたちに伝えるよう努力します。

#

(5)自己評価結果

前述の(1)～(4)をふまえて、A:そう思う(5点) B:どちらでもない(3点) C:そう思わない(1点)で自己評価してください。

I 教育目標 教育方針

①	園の教育目標や教育方針を理解している。	A	B	C	
②	園の教育目標や方針について、園長や他の先生方と話を する機会がある。	A	B	C	
③	園の教育目標や方針を保護者に説明できる。	A	B	C	
④	園の教育目標や方針を理解し、幼児の姿や環境の構成、保育者との かかわりなど具体的な事例を思いうかべることができる。	A	B	C	
⑤	園の教育目標や教育方針を念頭に置いて保育を行っている。	A	B	C	
				領域の得点	

II 教育課程 指導計画

①	園の教育課程は、教育目標を生かして作られている。	A	B	C	
②	園の教育課程を、必要に応じて見直している。	A	B	C	
③	指導計画は、幼児のしたいことや、興味のあることを考慮 しながら作成している。	A	B	C	
④	行事は、幼児の生活上の意義を充分検討した上で指導計 画に組み入れている。	A	B	C	
⑤	自分の保育と評価・反省について次の保育と計画に活か せるように行っている。	A	B	C	
				領域の得点	

III 教育環境

①	活動の環境を作る時には、指導計画を意識している。	A	B	C	
②	楽しい雰囲気の中で、安定して遊べるよう遊具や用具、 素材などの質・数量を配慮し環境を構成している。	A	B	C	
③	幼児の思いや言動を参考にしながら、保育室の装飾や 展示を考えている。	A	B	C	
④	自然や社会とかかわりを持てるような体験（芋掘り 遠 足など）を取り入れるようにしている。	A	B	C	
⑤	季節を感じられる、地域の気候を生かした保育を実践し ている。	A	B	C	
⑥	環境の構成について、先生方の中で積極的に意見交換を 行っている。	A	B	C	
⑦	年齢の異なる幼児が、触れ合えるような環境構成をして いる。	A	B	C	
				領域の得点	

IV 教育・保育の内容と方法

①	教育・保育内容や方法は、園の教育課程を基に行っている。	A	B	C	
②	幼児の家庭での様子を参考にしながら、援助の内容を工夫している。	A	B	C	
③	遊びを通してルールを学んだり、我慢したりといった経験を積めるような工夫をしている。	A	B	C	
④	幼児が意欲的に造形活動（描画・製作）をする時間を大切にしている。	A	B	C	
⑤	食べ物についてのお話をする機会がある。	A	B	C	
				領域の得点	

V 保育者の役割・資質向上

①	一人ひとりの幼児をよく観察するように心がけている。	A	B	C	
②	すべての幼児に平等に接するように心がけている。	A	B	C	
③	その場にふさわしい言葉遣いができる。	A	B	C	
④	幼児が遊びや活動を深めていくためのヒントやアイデアを提供している。	A	B	C	
⑤	幼児の見本となれるよう気をつけている。	A	B	C	
⑥	保護者との信頼関係を築く努力をしている。	A	B	C	
⑦	研修に行った先生の研修内容は、全員で共有している。	A	B	C	
⑧	指導上配慮を必要とする幼児について、園の保育者全体で話し合い、共通理解をもって工夫し対応している。	A	B	C	
				領域の得点	

VI 保護者との連携

①	個々の子どもの様子は、直接保護者と話をしたり、連絡帳や電話などで伝え合っている。	A	B	C	
②	一人ひとりの子どもについて、家庭での養育方針などを把握している。	A	B	C	
③	保護者の子育てについての相談にのっている。	A	B	C	
④	保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚に話を聞き、園長に連絡、報告、相談している。	A	B	C	
⑤	正しい日本語、丁寧な言葉と敬語を用いて話しかけ、相手の話も落ち着いてしっかりと聞いている。	A	B	C	
				領域の得点	

#

Ⅶ 地域住民や関係機関との連携

①	地域の人々と親しく挨拶ができる。	A	B	C	
②	地域のお祭りや伝統行事に参加することがある。	A	B	C	
③	地域のお年寄りとの交流を大切にしている。	A	B	C	
④	実習生を受け入れるときは、意義や方針を理解し、指導的立場で接している。	A	B	C	
⑤	地域の小学校と連携して、その小学校の行事や公開授業を見学に行っている。	A	B	C	
				領域の得点	

Ⅷ 運営管理

①	秘密情報(保護者・園児等に関する個人情報、および園の運営上の情報、保育技術・保育計画等の情報)については園長の許可なく使用、開示、漏洩していない。	A	B	C	
②	災害時や事故報告書の作り方を知っている。	A	B	C	
③	園の施設の安全点検、衛生管理をしっかりと行っている。	A	B	C	
④	園内での役割分担がはっきりと決まっている。	A	B	C	
				領域の得点	

総得点

点

(6)自由記入欄

今年度を振り返って、よくできたと思ったことがあれば記入してください
今年度を振り返って、反省点・改善点があれば記入してください

令和6年度 自己評価回答シート(園長用)

作成 まるやま学園 かおり幼稚園

評価実施日 月 日

(1)教育目標

自分で考え自分で行動できるこども

(2)教育方針

教育目標達成のために、一人ひとりのこどもの個性、能力を十分に伸ばし、自己確立していく指導を心掛けます。自己達成していく指導に、教師の一方的な考えによる指導をするのではなく、こども一人ひとりが自ら興味を示し、自分の力で取り組み、自己充実していくことを可能にする環境構成について考え、取り入れて行く様、努めています。こどもが今、何をしたいか、興味、関心、欲求、考え、また変容していく姿を的確に把握し、そのこどもの欲求や考えを実現することを援助するよう、関わり合いを持つことを大事にしています。

(3)教育課程

1. 自分で考え自分で行動できるこどもを育てる
2. 他人に対する思いやりを育む
3. 失敗に挫けない意欲を育てる
4. こどもらしいこどもを目指す

以上、4項目を大切に、指導計画を立てます。

(4)本年度の重点目標

本年度は、園舎建て替えに伴い、通常とは異なる環境の中での活動が増えることが予想されますが、環境に左右されることなく「自分で考え自分で行動できるこども」という教育方針が実現できるよう、教職員と保護者がこれまで以上に一体となった幼児教育を行うことを目標とします。

- ・ どのような状況でも、こどもたちの健やかな成長を支える質の高い保育を維持するため、新しい環境に適応した創意工夫を行います。
- ・ 安全性への理解と信頼を深めるため、保護者や近隣住民との積極的なコミュニケーションを図り、また教職員で共通意識を持てる環境づくりを醸成します。
- ・ 「自分で考え、自分で行動するこども」の力を育むため、保育士自身が模範となる姿を示します。どんな環境であっても課題に向き合い、主体的に考え、行動する姿勢を子どもたちに伝えるよう努力します。

#

(5)自己評価結果

前述の(1)～(4)を参考に、A:そう思う(5点) B:どちらでもない(3点) C:そう思わない(1点)で評価してください。

I 教育目標 教育方針

①	園の教育目標や教育方針を教職員に説明できる。	A	B	C	
②	園の教育目標や方針について、教職員と話をする機会がある。	A	B	C	
③	園の教育目標や方針を保護者に説明できる。	A	B	C	
④	園の教育目標や方針を理解し、幼児の姿や環境の構成、保育者とのかかわりなど具体的な事例を基に指導している。	A	B	C	
⑤	園の教育目標や教育方針を念頭に置いて保育を行うよう指導している。	A	B	C	
				領域の得点	

II 教育課程 指導計画

①	園の教育課程は、教育目標を生かして作成している。	A	B	C	
②	園の教育課程を、必要に応じて見直している。	A	B	C	
③	指導計画は、幼児のしたいことや、興味のあることを考慮しながら作成している。	A	B	C	
④	行事は、幼児の生活上の意義を充分検討した上で指導計画に組み入れるよう指導している。	A	B	C	
⑤	自分の保育と評価・反省について次の保育と計画に活かすよう指導している。	A	B	C	
				領域の得点	

III 教育環境

①	活動の環境を作る時には、指導計画を意識している。	A	B	C	
②	楽しい雰囲気の中で、安定して遊べるよう遊具や用具、素材などの質・数量を配慮し環境を構成している。	A	B	C	
③	幼児の思いや言動を参考にしながら、保育室の装飾や展示を考えている。	A	B	C	
④	自然や社会とかかわりを持てるような体験（芋掘り 遠足など）を取り入れるようにしている。	A	B	C	
⑤	季節を感じられる、地域の気候を生かした保育を実践している。	A	B	C	
⑥	環境の構成について、先生方の中で積極的に意見交換を行っている。	A	B	C	
⑦	年齢の異なる幼児が、触れ合えるような環境構成をしている。	A	B	C	
				領域の得点	

IV 教育・保育の内容と方法

①	教育・保育内容や方法は、園の教育課程を基にして作成している。	A	B	C	
②	幼児の家庭での様子を参考にしながら、援助の内容を工夫できているか確認している。	A	B	C	
③	遊びを通してルールを学んだり、我慢したりといった経験を積めるような工夫ができているか確認している。	A	B	C	
④	幼児が意欲的に造形活動（描画・製作）ができるような対応ができているか、確認している。	A	B	C	
⑤	食育につながるような「食べ物のお話」ができるよう指導している。	A	B	C	
				領域の得点	

V 保育者の役割・資質向上

①	一人ひとりの幼児をよく観察するよう指導している。	A	B	C	
②	すべての幼児に平等に接するように指導している。	A	B	C	
③	その場にふさわしい言葉遣いをするよう指導している。	A	B	C	
④	幼児が遊びや活動を深めていくためのヒントやアイデアを提供できるよう指導している。	A	B	C	
⑤	幼児の見本となっているか、確認している。	A	B	C	
⑥	保護者との信頼関係を築く工夫ができているか確認している。	A	B	C	
⑦	研修に行った先生の研修内容を教職員全員で共有できる場を提供している。	A	B	C	
⑧	指導上配慮を必要とする幼児について、園の保育者全体で話し合い、共通理解をもって対応するよう指導している。	A	B	C	
				領域の得点	

VI 保護者との連携

①	個々の子どもの様子は、直接保護者と話をしたり、連絡帳や電話などで伝え合うようにさせている。	A	B	C	
②	一人ひとりの子どもについて、家庭での養育方針などを把握させている。	A	B	C	
③	教職員が保護者の子育てについての相談にのれる体制を整えている。	A	B	C	
④	保護者からクレームがあった場合は、聞いた内容を、園長に連絡、報告、相談させるようにしている。	A	B	C	
⑤	正しい日本語、丁寧な言葉と敬語を用いて話しかけ、相手の話も落ち着いてしっかりと聞くよう指導している。	A	B	C	
				領域の得点	

VII 地域住民や関係機関との連携

①	地域の人々と親しく挨拶するよう指導している。	A	B	C	
②	地域のお祭りや伝統行事に参加できる機会を作っている。	A	B	C	
③	地域のお年寄りとの交流できる機会を作っている。	A	B	C	
④	実習生を受け入れるときは、意義や方針を理解させ、指導的立場で接するよう指導している。	A	B	C	
⑤	地域の小学校と連携して、その小学校の行事や公開授業を見学に行ける機会を作っている。	A	B	C	
				領域の得点	

VIII 運営管理

①	秘密情報(保護者・園児等に関する個人情報、および園の運営上の情報、保育技術・保育計画等の情報)については園長の許可なく使用、開示、漏洩しないよう指導している。	A	B	C	
②	災害時や事故報告書の作り方を指導している。	A	B	C	
③	園の施設の安全点検、衛生管理をしっかりと行っているか確認している。	A	B	C	
④	園内での役割分担を明確に決めている。	A	B	C	
				領域の得点	

(6) 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法など

保護者の皆様

かおり幼稚園
園長 大澤 薫

幼稚園評価のお願い

日頃より、かおり幼稚園へのご理解とご協力をいただきありがとうございます。今年度の園運営や保育活動の総括と来年度の改善のために、保護者の皆様に園の評価をいただきたく思います。ご多忙のところ恐縮ですが、よりよい園をつくっていくために、率直なご意見をお聞かせください。

かおり幼稚園 教育目標

自分で考え、自分で行動できるこども

教育課程

1. 自分で考え自分で行動できるこどもを育てる
2. 他人に対する思いやりを育む
3. 失敗に挫けない意欲を育てる
4. こどもらしいこどもを目指す

この4項目を大切にして、指導計画を立てます。

本年度の重点目標

本年度は、園舎建て替えに伴い、通常とは異なる環境の中での活動が増えることが予想されますが、環境に左右されることなく「自分で考え自分で行動できるこども」という教育方針が実現できるよう、教職員と保護者がこれまで以上に一体となった幼児教育を行うことを目標とします。

- ・ どのような状況でも、こどもたちの健やかな成長を支える質の高い保育を維持するため、新しい環境に適応した創意工夫を行います。
- ・ 安全性への理解と信頼を深めるため、保護者や近隣住民との積極的なコミュニケーションを図り、また教職員で共通意識を持てる環境づくりを醸成します。
- ・ 「自分で考え、自分で行動するこども」の力を育むため、保育士自身が模範となる姿を示します。どんな環境であっても課題に向き合い、主体的に考え、行動する姿勢を子どもたちに伝えるよう努力します。

評価方法

下記の評価基準を参照しながら、「保護者の評価」欄のA～Cのいずれかを○で囲んでください。

【評価基準】

- | | |
|---|---------------------------|
| A | そう思う・十分達成されている（おおむね80%以上） |
| B | どちらとも言えない（50%程度） |
| C | そう思わない・取組が不十分である（30%以下） |

提出期限

1月31日（金）までに、園長にお渡しください。

今年度の教育や運営に対するアンケート

	評価項目	保護者の評価		
		A	B	C
1.	子どもは幼稚園に行くのを楽しみにしている	A	B	C
2.	遊びや集団生活に必要な決まりを知り、守ろうとする態度が育ってきている	A	B	C
3.	子どもは様々な物事に興味関心を示し、知的好奇心や思考力、感動する心などが育ってきている	A	B	C
4.	人に対する信頼感や思いやりの気持ち、自己抑制力などが育ってきている	A	B	C
5.	子どもは体を動かし、体力が向上したり、たくましさが育ったりしてきている	A	B	C
6.	遊びの楽しさや達成感を味わい、自信をもって行動できるようになってきた	A	B	C
7.	子どもは自ら遊びを作り出す楽しさを味わい、幼稚園生活を楽しんでいる	A	B	C
8.	子どもは家族や近所の人、教職員などに、よくあいさつをしている	A	B	C
9.	運動会や遠足などの集団活動の中で、子ども一人一人が自己を発揮し、互いに力を生かし合いながら、共に学び合う様子が見られた	A	B	C
10.	幼稚園では、自然とふれあい生命を尊重する心や自然を大切にしている気持ちが育つような取り組み（遠足、畑で収穫など）がされていた	A	B	C
11.	保育士は子ども一人一人に目を向け、大切にしている	A	B	C
12.	保育士との会話や連絡帳等で、幼稚園やご家庭でのお子様の様子について日常的に情報交換がなされている	A	B	C
13.	幼稚園は保護者が様々な子どもとかわる機会をつくり、子どもの発達などに気付く機会をつくっている	A	B	C
14.	幼稚園は悩みや相談に親身になって対応してくれる	A	B	C
15.	保護者同士よくあいさつし、親しく交流できている	A	B	C
16.	保育士の子どもたちに対する指導や対応は、当園の基本的な考え方（教育目標・教育課程）と一致している	A	B	C
17.	保育中の発熱やけがなど、保育中の体調には適切に対応している	A	B	C
18.	アレルギー対応など食事に配慮が必要な際、家庭と十分な連携が取れている	A	B	C
19.	火災、事故、災害発生時や不審者対応など、緊急時の対策は充分に行っている	A	B	C
20.	幼稚園での個人情報情報は慎重に取り扱われている	A	B	C
21.	幼稚園の教育目標や指導の重点は分かりやすい	A	B	C
22.	幼稚園の本年度の重点目標は達成できている	A	B	C

* 上記項目への意見（特にC評価に対する理由、改善点）、園に対する意見・要望、お気づきのこと、園の努力点やよいところなど、自由にご記入ください。